

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

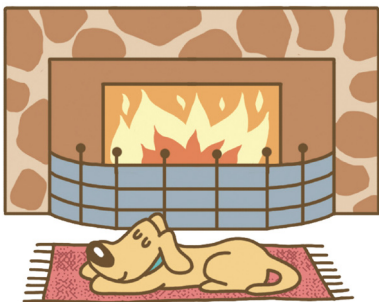
ホームページ
www.kodomo-
iin.com



一年の最後の月になりました。急に寒くなり、近くの山は冬化粧。いよいよ冬ですね。

師走は何かと忙しくなります。体調に気をつけて、良い新年をお迎えください。

このところインフルエンザが大きな流行になっています。今年は春から夏前にも流行があり、1年のうちで2回目の流行になりました。



インフルエンザの流行はパターンが決まっているものと思っ
た。年が開けてから少しづつ流行り出し、1月下旬から2月上旬にピークを迎えるというパターンです。私
が医者になってからずっとそうでした。
ところが、2020年の3月、イ

ンフルエンザの発生がパタッとなくなり
ました。それ以来、約3年間流行
がなくなりました。世界中同じで
した。

ご承知のように、これは新型コロナ
ナに対応するために、マスク
着用などの感染予防の対
応をしっかり行なったため
です。

新型コロナウイルス対応が緩和さ
れ、多くの感染症がまた流
行しやすくなりました。ま
た、数年間に渡って流行がなかつた
ために、十分な免疫を持たない人が
多くなりました。一度流行すると、
より大きな規模になりやすくなつて
います。

小児科外来はまたもや「発熱外来」
としての機能が求められています。
厳しい冬ですが、頑張っ
て乗り切りたいと思います。

感染症情報

インフルエンザは全国的に流行期に入っていますが、当地でも少し遅れて、先月下旬から大流行になっています。学級閉鎖や休校の措置も取られています。現在は小学生が中心の流行ですが、今後幼児などにも広がってくる可能性があります。十分注意してください。

A型インフルエンザは通常は1、2月に流行のピークがあるのですが、今シーズンはずいぶんと早い流行です。年末年始でやや下火になるかと思いますが、その後B型インフルエンザの流行があるかもしれません。

また抗インフルエンザ薬が不足するなど、診療体制も混乱しています。感染予防の対応を続けてください。

新型コロナウイルス感染症の発生は、現在は少なめで推移しています。しかし完全になくなる様子はなく、こちらにも注意が必要です。

感染性胃腸炎の発生数がやや多くなりました。多くはウイルス感染症で、園や家庭内で集団発生することがあります。乳幼児は脱水や低血糖を起こしやすく、ぐったりしている場合は早急な対応が必要です。

ヒトメタウイルス感染症やマイコプラズマ感染症が目立っています。いずれも気管支炎を起こす感染症です。

溶連菌感染症は少数ですが、発生があります。咽頭痛と発熱が主な症状です。抗菌薬による治療が必要です。

手足口病がまだ一部の園で発生があります。

しかし・・・必要な医薬品が不足！まるで、戦場に駆り出されたのに武器がなく、丸腰でいるような状態。困ったことです。
色々やりくりしながら診療しています。ご協力をお願いします。

今月の予定

年末年始休診のご案内

12月29日(金)午後～1月3日(水)
※年末は29日午前で仕事納め、新年は4日仕事始めになります。長いお休みになりますが、よろしくお祈りします。

院長・副院長出務

上越市乳幼児健診 20日
上越有線放送「健康ライフ」21日
FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～
上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)
医院ホームページ内

☆インフルエンザの全国的な流行のため、必要な薬剤が不足。内服を坐薬に、錠剤をつぶして粉薬にするなど工夫しています。

医薬品

足りず困っています

現在、インフルエンザが大きな流行になっていますが、必要な医薬品が品不足になっていて、治療に苦慮する毎日が続いています。

抗ウイルス剤のタミフル（一般名「オセルタミビル」）の散剤がほとんど入荷してきません。首都圏で先に流行になり、そこでたくさん使われたいだけという話もあるのですが、それだけではないようです。生産量そのものが元々少なく、需要に追いついていなかったようです。つまり、生産体制に問題があったということです。

そのために、小学生以上は吸入の薬剤（イナビル、リレンザ）を使用してもらっています。厚労省からは、いざとなったら大人用タミフルのカプセルを外して、子ども用に作り替えるように指示がきています。こんな裏技を使うのは初めてです。さらに今は解熱剤も不足。小児には一般名「アセトアミノフェン」のみ使用可能ですが、その散剤が入荷

されません。仕方なく、坐薬に変更したり、錠剤を潰して飲んでもらうようにお願いします。誠に心苦しい限りです。

●ある後発品メーカーの不正

医薬品の供給不足が顕著になったのは2020年のある事件からです。小林化工（福井県、のちに廃業）の製造した水虫の薬を服用した後に意識障害などの健康被害が150件以上発生、交通事故が20件以上。そして2人の方が亡くなっています。製品を作る際、決められた手順を無視し、睡眠剤を混入させたのが原因です。製薬メーカーとして、絶対に起こしてはいけない事故でした。

その後、いくつもの後発品（ジェネリック）メーカーでミスが発覚し、多くの医薬品製造が中止になりました。これが今の医薬品不足の要因の一つです。

先発品は大手の製薬会社が開発し、製造、販売しています。一定の期間が過ぎると製造特許が切れ、他の企業が製造できるようになります。後発品です。

開発費や宣伝費がかからないため、製造コストは安くなります。後発品の薬価（公定の値段）はおよそ半額になっています。

医療保険全体の医療費を安くすることが国の財政支出軽減になるために、国は後発品の使用を勧めています。でも、実はここに大きな問題がありました。

●後発品の問題

一つは品質です。後発品メーカーは小規模の企業が多く、どこまで製造をきちんと管理できるか疑問です。先の事件のように、「いい加減」に作っているのではないかとという疑念があります。

もう一つは生産量です。医薬品は安定して供給されなければいけません。今必要な薬は、今使えなければ役に立ちません。インフルエンザのように、流行の規模が大きくなれば、需要は急激に大きくなります。それに応じられるような生産体制を作っておくのも業者の責任ですが、実際にはできていません。

●国の責任を問う

保険診療という国の制度の枠内で医療は行われています。必要な薬を安定して供給するのは、国（厚労省）の重要な責務です。それが十分に行われていません。

後発品を推進するのであれば、優良なメーカーを作り、育てる義務があります。先発品は値段が高いと言って「邪険」にしているのだろうか。薬価は厚労省が決めているのだから、先発品の薬価を、特許切れ以降は安くし、安定して生産させる方法が取れないのだろうか。

これだけ問題を抱えている後発品ですが、国は来年度から新たな制度を作ろうとしています。先発品が処方された場合、「先発品と後発品の差額」が全額、患者さん負担になるという制度です。

後発品の供給がこれだけズタズタ、ボロボロの状態なのに、よくそんな制度を考えたものです。どっちを向いて医療政策を考えているのか？ マイナ保険証の問題もそうですが、国民を主人公として政治や行政を行なって欲しいものです。